

# 2022年度

「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業

## 2022原子力災害復興学セミナー報告書

## 2022原子力災害復興学セミナー概要

### 東日本大震災・原子力災害伝承館にて「原子力災害復興学セミナー」を開催

長崎大学は、令和3年度に採択された「復興知」福島イノベーション・コースト構想促進事業（実施期間令和3年度から令和7年度の5年間）

「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」の一環として、令和5年1月25日に東日本大震災・原子力災害伝承館にて

「2022原子力災害復興学セミナー」を現地とオンラインにて開催しました。

本セミナーは、一般社団法人日本原子力産業協会にご協力いただき、原発立地・周辺自治体職員及び原発関連企業・団体、学生など、現地とオンライン合わせて51名が参加しました。

このセミナーは、放射線被ばくと健康影響および処理水についての理解醸成を目的として実施しました。各講演の最後は、オンラインと現地両方で活発な質疑応答が行われました。今後も原発立地・周辺自治体職員及び原発関係企業・団体や教職員などを対象としたセミナーを行っていきます。

- ・日時：2023年1月25日（13：00～15：10）
- ・会場：東日本大震災・原子力災害伝承館
- ・対象者：原発立地・周辺自治体職員及び原発関連企業等
- ・参加人数：51名（スタッフ含む）
- ・内容：放射線被ばくと健康影響（高村昇教授）  
A L P S 処理水の処分に対する対応について（木野正登参事官）



## ポスター・プログラム

2022年度大学の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業  
(福島イノベーション・コースト構想推進機構)

**参加費  
無料**

# 2022 原子力災害復興学セミナー

放射線被ばくと健康影響および  
処理水についての理解醸成

**2023.1.25(水) 13:00~15:10**

【配信会場】 東日本大震災・原子力災害伝承館  
【対象】 原発立地自治体および関連企業の職員など  
【開催方法】 Webexによるオンライン配信  
■申込フォーム / <https://forms.office.com/r/SdvPkYWeFW>  
■申込締切 / 2023年1月11日(水) 17時まで

【参加方法】 上記申込フォームから事前登録

**13時05分~13時55分**

放射線被ばくと健康影響

**高村 昇教授**

○長崎大学原爆後障害医療研究所 教授  
○東日本大震災・原子力災害伝承館 館長



**14時10分~15時00分**

東京電力福島第一原子力  
発電所の廃炉と処理水

**木野 正登参事官**

○経済産業省資源エネルギー庁  
福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策  
○廃炉・汚染水・処理水対策推進室 廃炉事務所参事官



[主催] 長崎大学 福島未来創造支援研究センター

お問い合わせ先 **長崎大学 福島未来創造支援研究センター**  
TEL.095-819-7098 E-mail:fukushima@ml.nagasaki-u.ac.jp

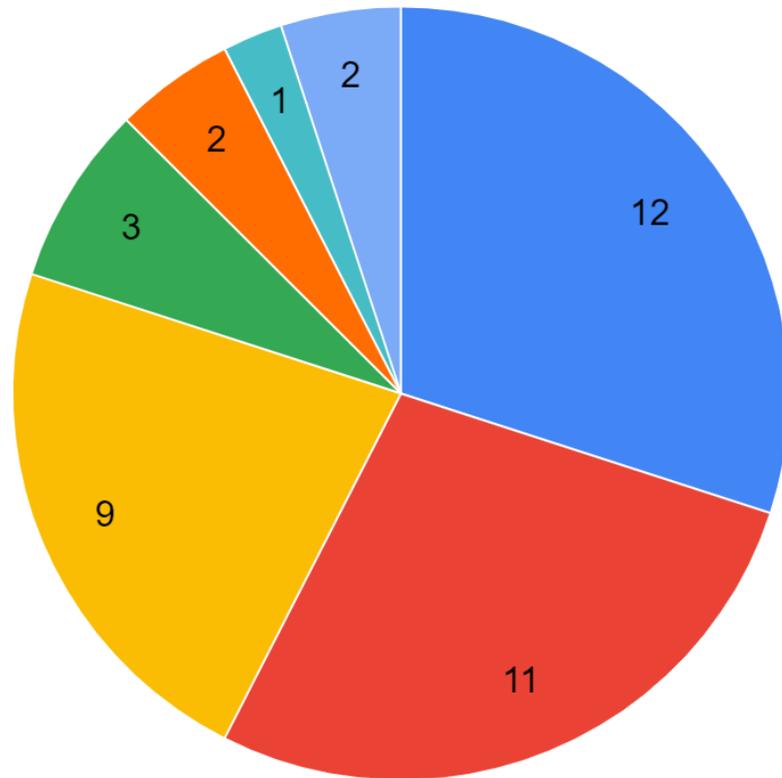


時間	題目	登壇者
13:00-13:05	開会の辞	長崎大学原爆後障害医療研究所 助教 松永妃都美
13:05-13:55	放射線被ばくと健康影響	長崎大学原爆後障害医療研究所 教授 高村 昇
	質疑応答	高村 昇
13:55-14:10	休憩	
14:10-15:00	東京電力 福島第一原子力発電所の 廃炉と処理水	経済産業省資源エネルギー庁 参事官 木野 正登
	質疑応答	木野 正登
15:00-15:10	閉会の辞	長崎大学原爆後障害医療研究所 教授 高村 昇

## 参加者およびアンケート結果

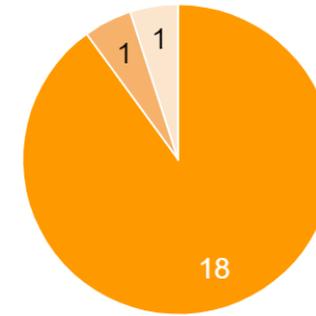
### 参加者

- 原発関連企業・団体
- 学生
- 教育機関
- 自治体
- 連合組織
- 医療機関
- その他



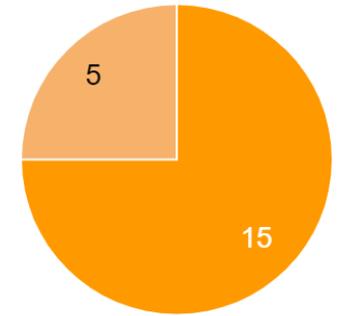
### セミナーのテーマ

- 満足
- やや満足
- ふつう



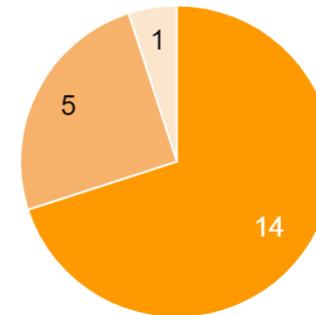
### 受講満足度

- 満足
- やや満足



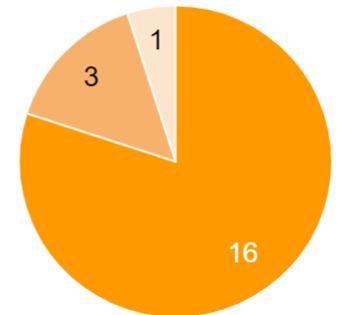
### セミナーの進行

- 満足
- やや満足
- ふつう



### プログラム内容

- 満足
- やや満足
- ふつう



## アンケート結果①

今回のセミナーを受講して良かったことや感じたことはありますか？

現地でどのような説明、取り組みがなされているのかが理解できた。福島県外へのリスコミが重要だと感じた。

放射線に関する広報活動が必要なこと。自然放射線も医療放射線も人工放射線も被ばくの影響は同じであることを伝えなければならない。

電力供給課題、福島の復興に向けた課題を、国民全体で考えていくうえで貴重な機会を設けていただいていると思います。また、電力、復興いずれも長期的な課題であり、特に若い方々に考えを深めていただくためのよい取り組みと感じました。

風評被害対策について、多くの方が取り組んでくれているとメッセージも受け取ることができた。ありがとうございました。

大変わかりやすい内容でした。

東日本大震災から11年を経て、我々から次の世代（今回参加の長崎大学などの学生世代）に、廃炉（や処理水の海洋放出、原発再稼働）の問題を、受け渡すことを考える時期にきている。一緒に受講できたことはよかった。

講話や質疑応答の様子を通じて、学生（若い世代、医学部学生）が何を疑問に思い、どう感じているか、電力事業者の方がどのようなことに配慮して話をされるかがよく伝わった。勉強になりました。

原子力災害から10年以上経過し、産業の活性化、食品流通や街の復興はそれぞれ新たな課題に向き合っていることを、わかりやすくお纏めいただき感謝いたします。ありがとうございました。福島県では、8割近くの住民が帰還されている地域がある一方で、原子力立地町は、残念ながら元に戻ることは難しく、新たな流入者とともに魅力ある街づくりを考えていく必要があるのだと思いました。ALPS処理水について詳しい説明と風評影響への対策がなされていると感じました。しかし、大消費地の首都圏でどれほどの人たちが正しく理解しているかが不明です。報道のあり様にも問題があると思います。地方紙の中には、悲しいかな悪意ともとれるような風評を伝えるところがいくつか見受けられます。これらを払拭するために、安全対策や広報を強化することがどれほどの経済負担を招くことになるか、そして、それらはすべての国民に薄く痛み分けされることをわかって書いているのか？と憤りを覚えます。風評影響対策はもちろん必要ですが、明らかに誤った風評を扇動する発信への対策はどうすればよいのでしょうか。関係省庁のWebサイト、パンフレット、草の根活動などのほかに、SNSを通じて関心を寄せてもらうことも必要だと思いました。（きっと着手されていることと思います）ありがとうございました。

会場からの積極的な質問があり、熱心に勉強していることが良く伝わりました。

クライシスコミュニケーションの重要性を改めて実感できました。

高村先生が言われたとおり、福島県の方はトリチウムの処理が影響がないことは理解されており、それよりもまさに風評被害を恐れているというご発言はその通りだとおもいました。私どもを含めて県外の方に誤解されないよう説明していくことの重要性を改めて感じました。

わかりやすい講演でした。当日の資料pdfもアンケートから入手でき講演内容を復習できて助かります。

福島県にお住まいの方の放射線の健康影響について大変分かりやすい講演だったと思います。

放射線の健康に対する理解を確認できたこと、原発事故による被ばく対策がしっかり取られており、健康被害は極めて少ないことが確認できた。ALPS処理水放出の安全性が確認できた。

放射線の健康影響について、福島でのご活動を基にお話しいただき、説得力がありました。また、ALPS処理水の放出についての安全性については、何度も正確な情報提供する必要があると思いました。

汚染水の排出と周辺国が勘違いして反対していることが分った。ALPS処理水と汚染水の混同。

## アンケート結果②

今回のセミナーで新たな学びがございましたらお答えください。

科学知見に基づく合理的な合意形成のためには、現状の課題と現状の知見、それらを踏まえた今後の取り組みと展望を国民全体に広め、理解を促す地道な取り組みが重要な前提の一つだと、再認識しました。

健康被害はないと理解していても、根拠を人に伝えるまでには至っていたなかった。  
処理水と汚染水の違い、トリチウムがなぜ取り除けないのかが明確に分かったので、  
県民の理解醸成につなげていきたい。

今回のセミナー内容を、第三者へどのように伝えたら良いか、自身で考えてみたいと思います。

新たな、というより、忘れかけていた福島第一原子力発電所事故の詳細について「学び直し」が多かった。

木野参事官が事故後、廃炉・汚染水・処理水についての業務をご担当されていて、発電所の状況をわかりやすく説明されていることが印象に残りました。高村教授の放射線被ばくについてのわかりやすい説明が、いつもながらよかったと思いました。

中国、韓国の理解の話が興味深かったです。「汚染水を放出するな」と「処理水しか放出しない」のギャップを克服するにはどうしたら良いのか、どうしても受け入れられない相手に、どういう態度で臨むべきか、たいへん示唆に富むお話で参考になりました。

リスクコミュニケーションの現状が把握できました。

処理水のトリチウムが基準値以上のレベルまで希釈され、人体にほぼ影響がないレベルまで処理されること。他の原発においても通常の稼働でトリチウムが放出されていること。

その他、ご意見・ご要望がございましたら、ご入力ください。

原子力発電所の規模感覚と、連日数千人の作業員が働いている廃炉の現場を、30歳以下の若い世代によく見て、体感してほしい。（自らの体験から）私は近々、数度目の福島第一原子力発電所視察予定です。

今後も毎年、ご継続されることを希望致します。

当会は中部地方で、原子力の開発利用と放射線利用の促進に向け広報活動を展開しております。直近発行予定の放射線のパンフレットや3/3開催のRI・放射線セミナーでも、福島に関する内容やALPS処理水を取り上げております。当会専門部会の専門家の先生、放射線関係者、一般市民からも関心が高く、より充実して最新の科学的な情報を分かり易く皆さんが腹落ちするように提供するにはどうしたら良いのか常に考えていく中で、このようなセミナーはとても有意義です。今後とも貴方情報発信を活用させて頂きたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

是非次回も視聴させていただきたいと思っております。

今後も継続的な開催をお願いします。

長崎大学の学生さん以外にも多くの大学生に聴講いただけるといいですね。

ALPS処理水の利用について、学生が質問していたので、確かに1日130トンの水を他の発電所の冷却水に1日200トン必要ならそれに利用できるのではと考えた。そうすれば、福島海に海洋放出せず、分散して今までどおり放出できるのではと考えた。

セミナーに参加させていただきありがとうございました。タイムリーなテーマで勉強になりました。後半20分、セミナー視聴場所にて凍結による帰宅指示の連絡が出てゆっくり拝聴できず申し訳ないです。

総理経験者5名の方もこのようなセミナーを受講していたら、欧州委員会に変な内容の書簡を提出することはなかったらなあと思いました。